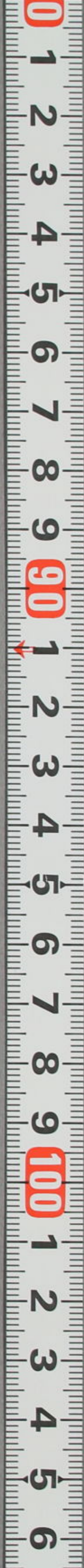


^13
3948
4



門 へ 13
號 3948
巻 4

三

繪本三國妖婦傳下偏卷之四

目錄

三浦上総介大將宣下此圖
三浦上総介大將宣下此圖

三浦上総介大將宣下此圖
三浦上総介大將宣下此圖

三浦上総介大將宣下此圖
三浦上総介大將宣下此圖

大内の庭上に大城集の狐狩酒練の圖
大内の庭上に大城集の狐狩酒練の圖

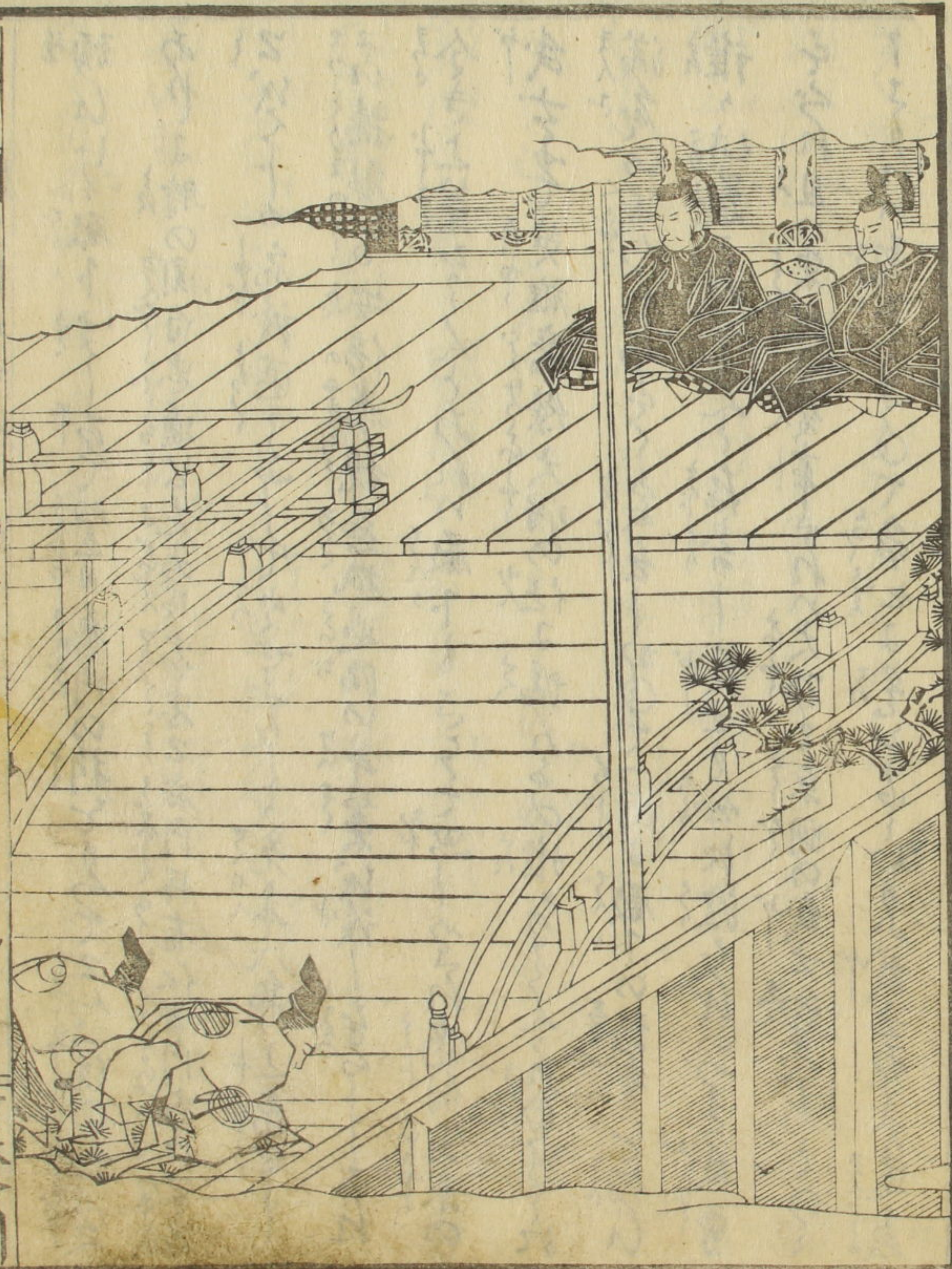
三國大帝傳下偏司録

四

繪本三國

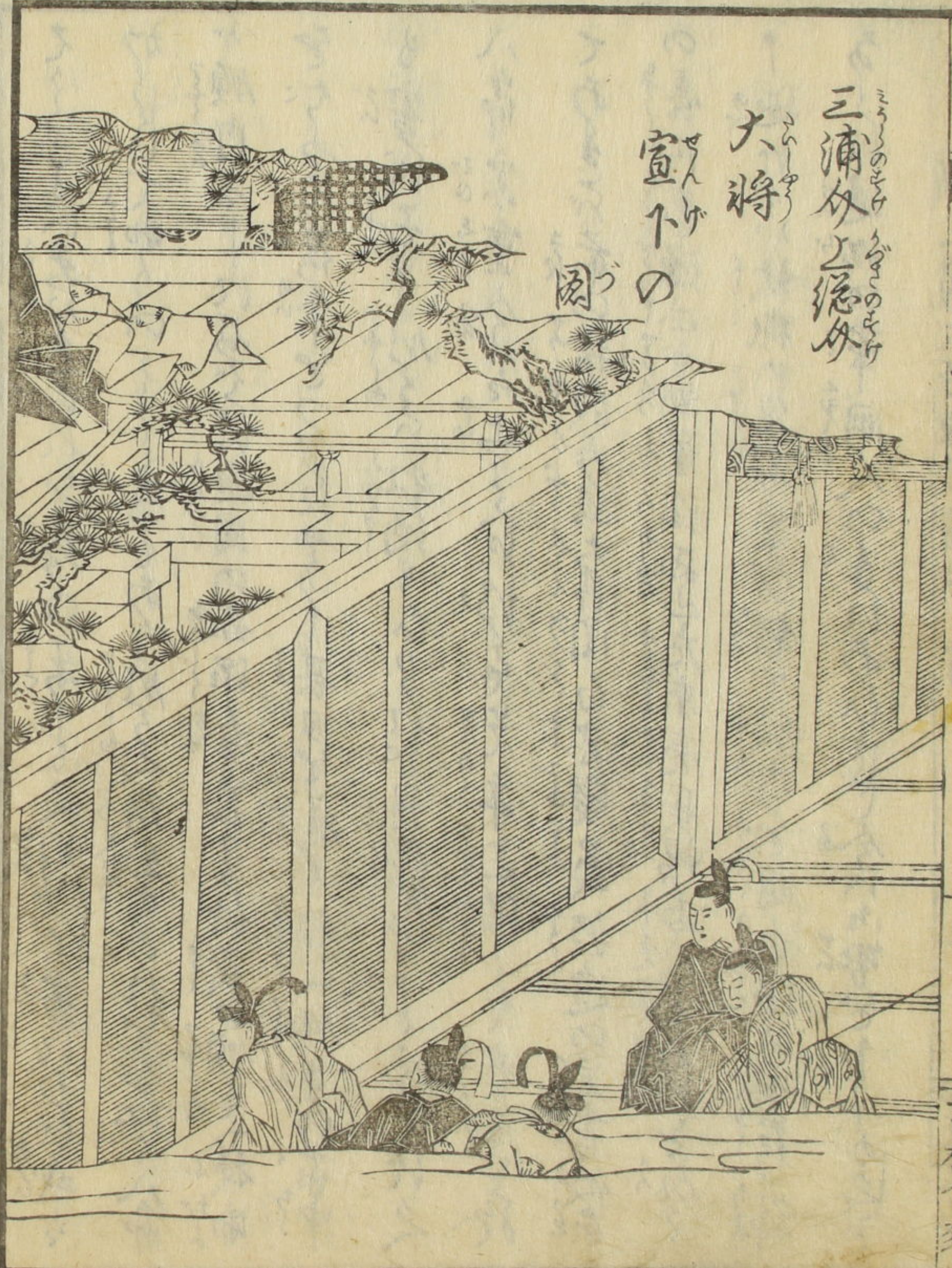
元あつて天治元甲辰より崇徳院と稱し、より足あり清和を
 大納言公實々の息女名を璋子、後、待賢門院と稱し、
 日月の如くうらやまを降す、約は神しく光陰矣、よりも、
 天治より大治、天長、長業の年号、改称して保延、三丁巳年、
 十丁酉年、形、源八郎、頼内、静養、なり、より、
 形、源、中、兵衛、重、信、正、白、面、金、毛、九、尾、の、悪、狐、昼、夜、形、を、わ、
 害、彼、を、は、ら、ひ、び、に、頼、内、の、民、百、姓、父、母、妻、子、兄、弟、眷、族、を、
 され、泣、き、り、む、お、ち、ま、さ、に、も、て、衣、之、奪、し、も、戸、ご、他、
 従、来、は、と、と、わ、ら、り、と、農、業、を、お、し、も、な、さ、れ、バ、
 ろ、び、困、窮、を、修、不、修、り、其、之、隣、國、他、々、の、

とうとう、さ、ら、に、美、り、さ、れ、を、
 か、り、り、て、
 が、頼、内、に、
 を、
 も、
 八、
 て、
 の、
 中、
 あ、



三浦大將傳六編卷之四

三浦大將傳六編卷之四



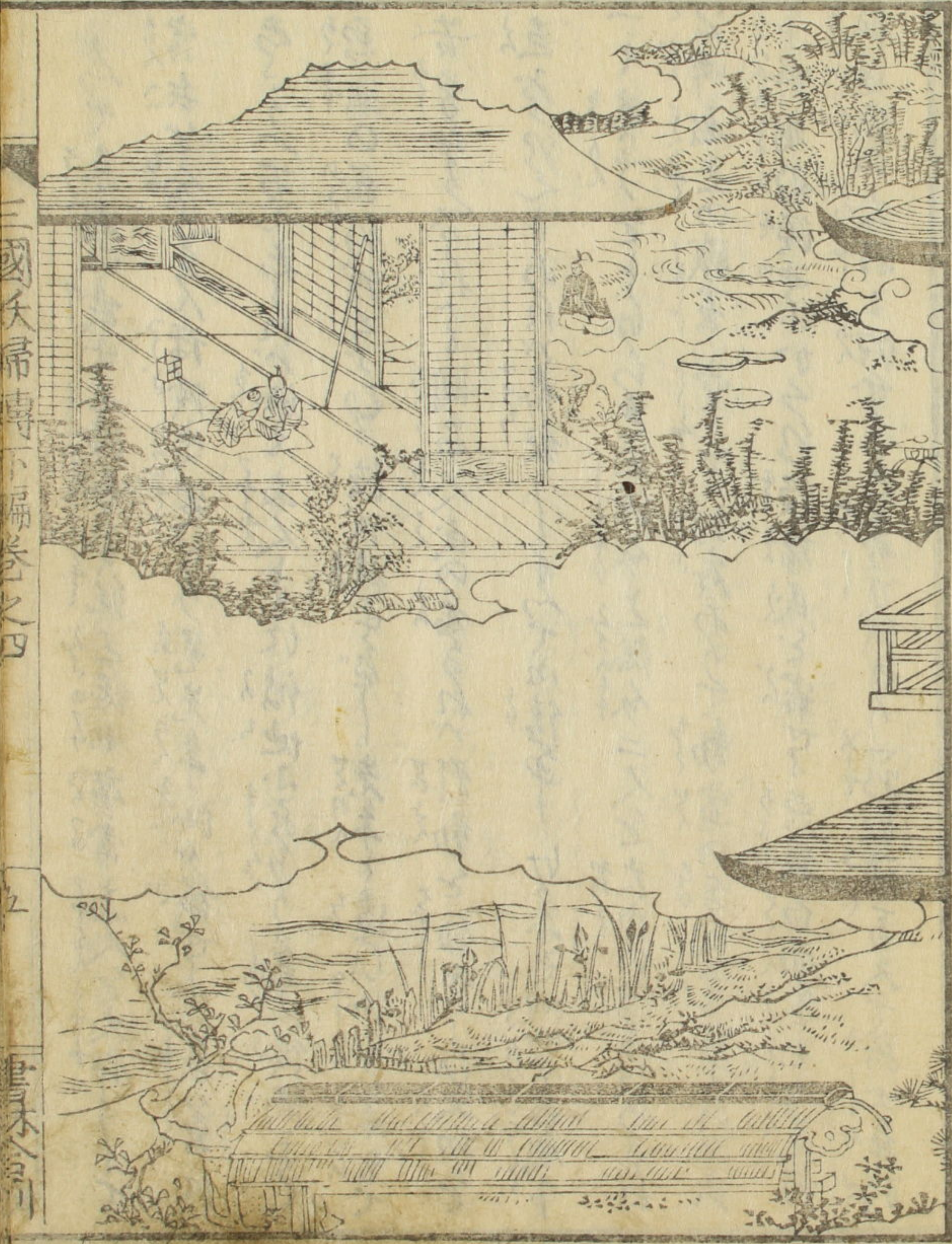
三浦大將
宣下
園の

三浦大將傳六編卷之四

三浦大將傳六編卷之四

願ひける殿下（きり）にて翌日糸内（ま）の折をりて二統（しゆ）の評定
 ありし時（とき）の園白忠通（お）と大后家忠（お）と右内后有仁（お）と内大臣家忠（お）
 と、いづれ（い）の元誠（もと）に（ま）てて（ま）せりし先年八帛上（せん）を（ま）せし
 其播磨守安信泰親（あ）と親執退治（お）の斗策（た）以（ま）て（ま）りしを（ま）りし
 今（いま）上策（じやう）を（ま）りしとわれぬ殿下（けん）も（ま）こ（ま）を（ま）思（おも）ひ（ま）されぬ時（とき）を（ま）承（ま）承（ま）の
 武士（ぶ）士（し）ありて英雄（えい）豪傑（ごう）大將（たい）の任（に）は（ま）ん（ま）の（ま）権（けん）ありしと（ま）承（ま）承（ま）に
 満座（まん）の（ま）ん（ま）た（ま）や（ま）を（ま）愛（あい）せし一（い）回（かい）は（ま）殿下（けん）の（ま）強（きやう）意（い）を（ま）伺（うかが）ひ
 誰（た）れ（ま）け（ま）る（ま）わ（ま）る（ま）今（いま）存（ぞん）ありし武士（ぶ）士（し）も（ま）公（こう）に（ま）浮（う）び（ま）び（ま）づ（ま）き（ま）武（ぶ）勇（ゆう）
 と（ま）られ（ま）且（かつ）東國（とう）の（ま）交（かう）車（しや）されし大將（たい）も（ま）東國（とう）の（ま）武士（ぶ）士（し）勢（せい）を（ま）りしと（ま）
 承（ま）承（ま）れば殿下（けん）も（ま）こ（ま）を（ま）思（おも）ひ（ま）されぬ時（とき）を（ま）承（ま）承（ま）の
 承（ま）承（ま）れば殿下（けん）も（ま）こ（ま）を（ま）思（おも）ひ（ま）されぬ時（とき）を（ま）承（ま）承（ま）の

なく（ま）強備（きやう）ありしと（ま）大切（たい）の任（に）は（ま）ん（ま）の（ま）能（のう）い（ま）味（あ）わ（ま）りて（ま）承（ま）承（ま）に
 東國（とう）の（ま）武士（ぶ）士（し）を（ま）承（ま）承（ま）に（ま）りしと（ま）大切（たい）の任（に）は（ま）ん（ま）の（ま）能（のう）い（ま）味（あ）わ（ま）りて（ま）承（ま）承（ま）に
 池上（い）上（じやう）総國（そう）の任人（に）と総女（そう）度常（た）の（ま）人（に）英雄（えい）の（ま）ま（ま）りしと（ま）大切（たい）の任（に）は（ま）ん（ま）の（ま）能（のう）い（ま）味（あ）わ（ま）りて（ま）承（ま）承（ま）に
 けふ（ま）を（ま）諸々（しよ）か（ま）の（ま）殿下（けん）の（ま）い（ま）が（ま）ぬ（ま）大將（たい）小使（せう）を（ま）承（ま）承（ま）に
 可（か）し（ま）ら（ま）し（ま）も（ま）わ（ま）り（ま）し（ま）と（ま）承（ま）承（ま）に（ま）りしと（ま）大切（たい）の任（に）は（ま）ん（ま）の（ま）能（のう）い（ま）味（あ）わ（ま）りて（ま）承（ま）承（ま）に
 案内（案内）を（ま）承（ま）承（ま）に（ま）りしと（ま）大切（たい）の任（に）は（ま）ん（ま）の（ま）能（のう）い（ま）味（あ）わ（ま）りて（ま）承（ま）承（ま）に
 六（む）位（り）人（に）を（ま）承（ま）承（ま）に（ま）りしと（ま）大切（たい）の任（に）は（ま）ん（ま）の（ま）能（のう）い（ま）味（あ）わ（ま）りて（ま）承（ま）承（ま）に
 内（ない）言（ごん）成（じやう）の（ま）い（ま）りしと（ま）大切（たい）の任（に）は（ま）ん（ま）の（ま）能（のう）い（ま）味（あ）わ（ま）りて（ま）承（ま）承（ま）に
 害（がい）ありし（ま）自領（じ）他（た）の（ま）人（に）民（みん）勝（しやう）し（ま）死（し）し（ま）被國（ひ）の（ま）困（こん）窮（きやう）大（たい）き
 ろ（ま）び（ま）形（か）須（しよ）八帛（は）より退治（たい）の（ま）官（くわん）兵（へい）城（じやう）下（げ）りしと（ま）大切（たい）の任（に）は（ま）ん（ま）の（ま）能（のう）い（ま）味（あ）わ（ま）りて（ま）承（ま）承（ま）に



三浦上総
 雲友
 武友
 授
 園

つて東國の武士三浦久義純上総助廣常を大将として
官兵を命じて人征伐定むるは先年汝が議せし良案に
あつたやあらざれば汝も友人ともに情地小ありり兼て後世に
悪敵の形跡を以て法以て治すべし先年と遠く汝今を以て
昔をなすべからざる國家人民の爲めれば移勤を勵むるは大功を
爲すべしとわれは素親しき年つては徳を以て小を河の黒白殿下
一と奏すをとりけりは三浦女上総女二人を大内の際にめされ
公卿殿上の職事堂より列座ありて勅宣の言以て遠く汝を
下野國形濱中から召し召し治民を害せし悪敵白面金毛九尾乃
祇退治の大將は汝が是を帝力にあり一に汝が言ふ又十諸士を列

率熱友兵七ふ又百餘人で扱けり是もあはれ其勢一万又千餘人其
源下より衆武功をあらわし悪敵を滅し人民の害を治すは徳
は体たゞ一腹を治進の務容易あつたる極概中を人救済あり
きは虎豹も及ぶ如くあらざれば汝が徳の心も祇退治の
稽古調練のよきありと一の宣言を友人母を在系を多し
武士の中より大將の位を授けしは是もあはれ是れ家の面目實加
小ありりては徳を以て退治されし素親を召きて改て此後世に
下向の宣言を遠く是も是又長て退治しは後三浦上総
あはれ圓白殿下の彼にあり本懐を達し依光隣ありて
替古ありべき場あり何れ地の定先ありんやと伺ひされ

殿下の御中知々々大内の方庭少ねわて大内多々み御
 下と見送りつて士卒引率細練の之見分せうけ資向て
 ござひの命でござりり移て三浦と根あみお後々々々
 の根柢彼ハ神通あねが武備の之代ひて得ござらん率神カ乃
 加護よりわん功をまんとけ之と三浦女ハ乃信
 務務大内神を待候一此度勅命を蒙る形治世の無敵退
 治神カノ加護をよれまると行願一上総女も高良の神カ
 をうけたりけるが行乞の儀を感無納文すりりわの神カ
 高良の神カりけるを汝け度於源其の無敵退治とぞ勅命
 汝等が神カノ推護汝神カよそ志切をうけりて弓を引

扱くこれをとりて選治とぞ一と源務大内神カより賜るとぞ高
 高良記よりて見れば白木の弓は響の羽乃証矣二節は源あり
 三浦女感涙を流し一嗽もあふ身汝清め弓矢をて抑
 して記明神カ神カ一太形成神カがと記ひいふと
 源女一上総女も同じおはま高良の神カり高良明神カ
 受の神カわつた大身の澁汝一あみ是あて無極とた
 高良一神カも神カをくると高良を思ひ高良の神カり不思
 汝等よりと記送り見れば高良小掬け多し一澁を掬小迎たて
 うけてあり身汝清りてかの澁をわつた高良の神カり高良の神カを
 高良とびらる掬てあ人大内の務古場よ出てあ百人の士卒を



大内おのうちの
 庭てい上じやうめて
 松まつ将しやう
 調てう練れんの
 園えん

三國大將傳下馬

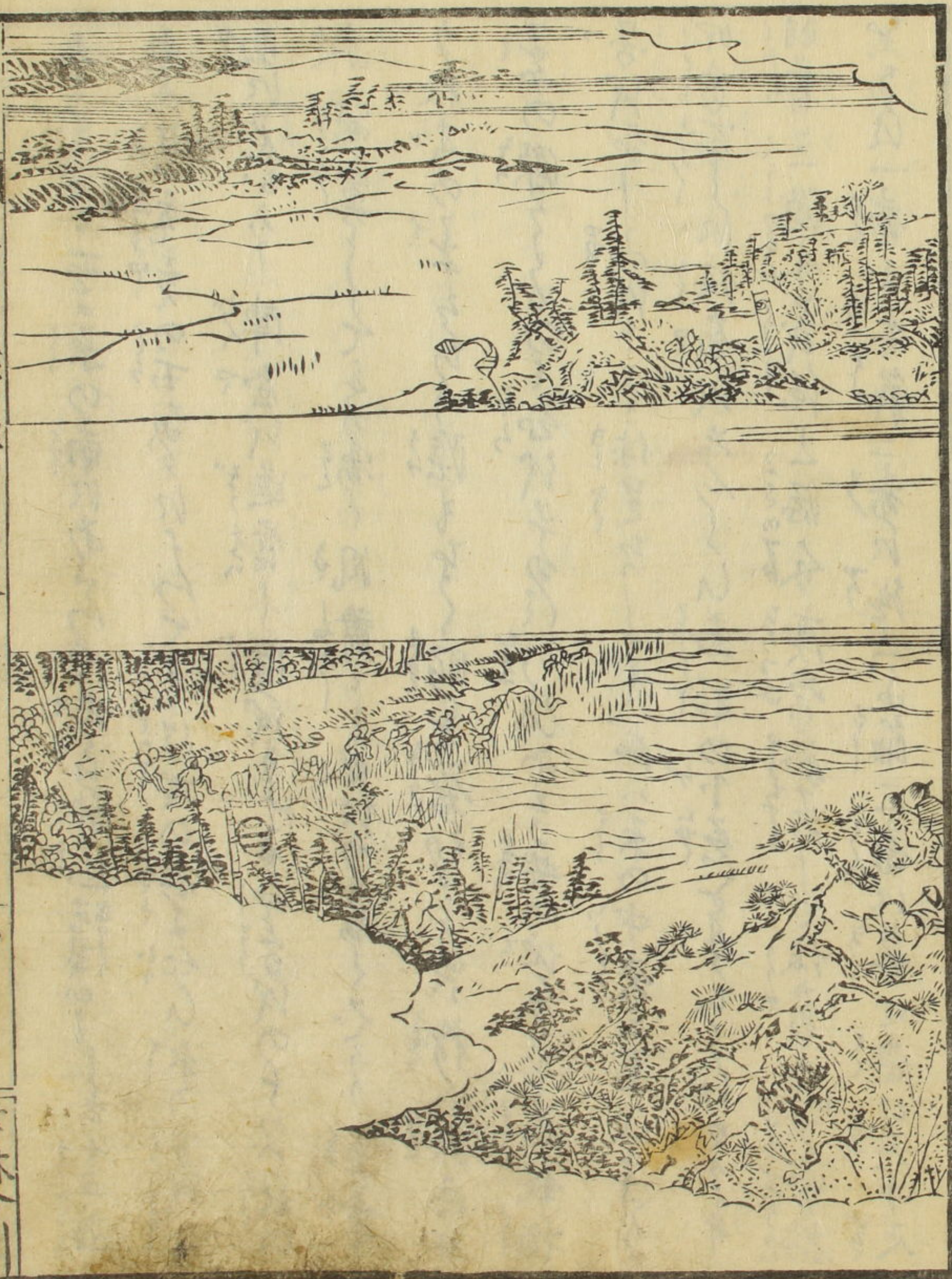


三國大將傳下馬

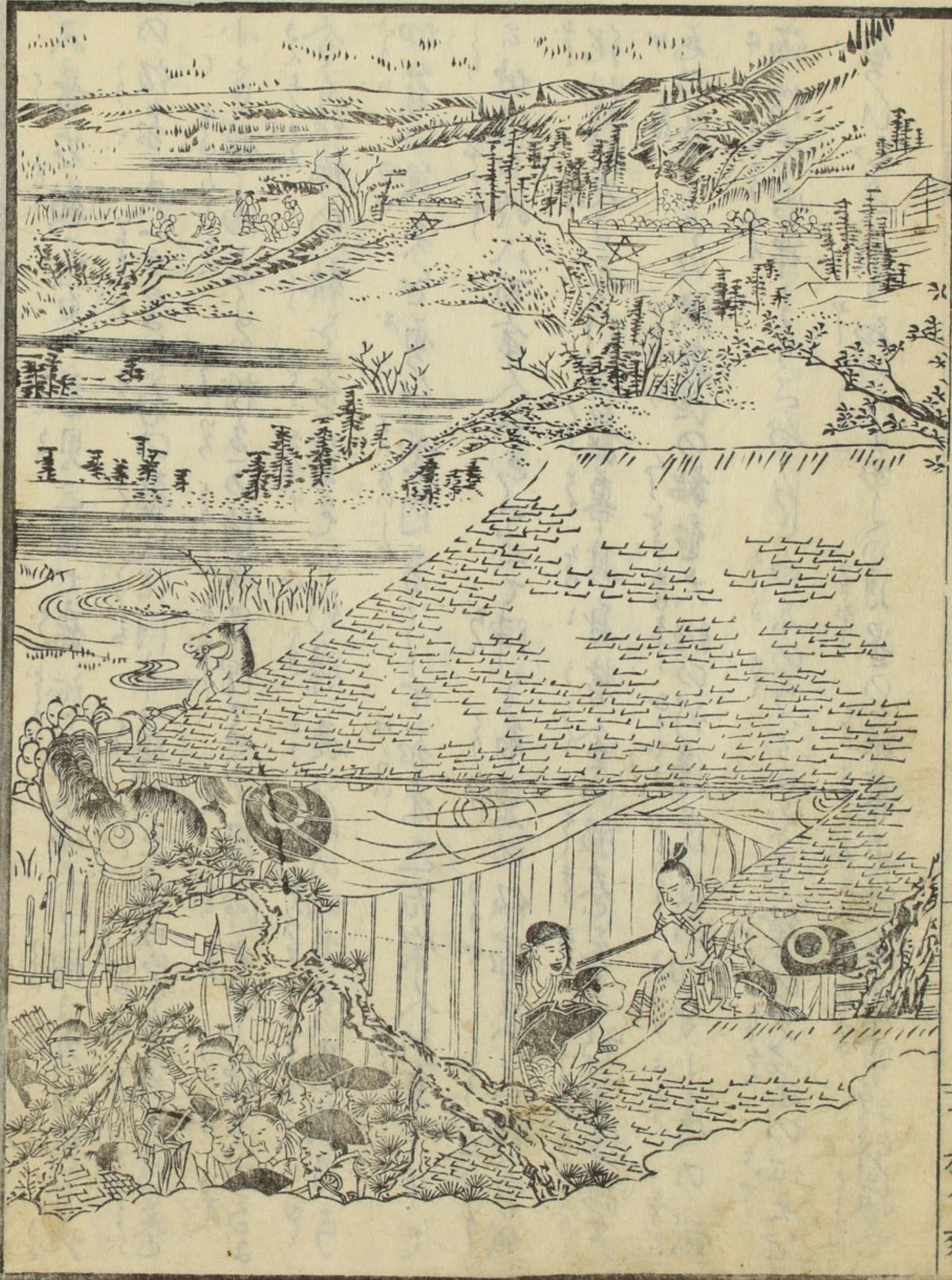
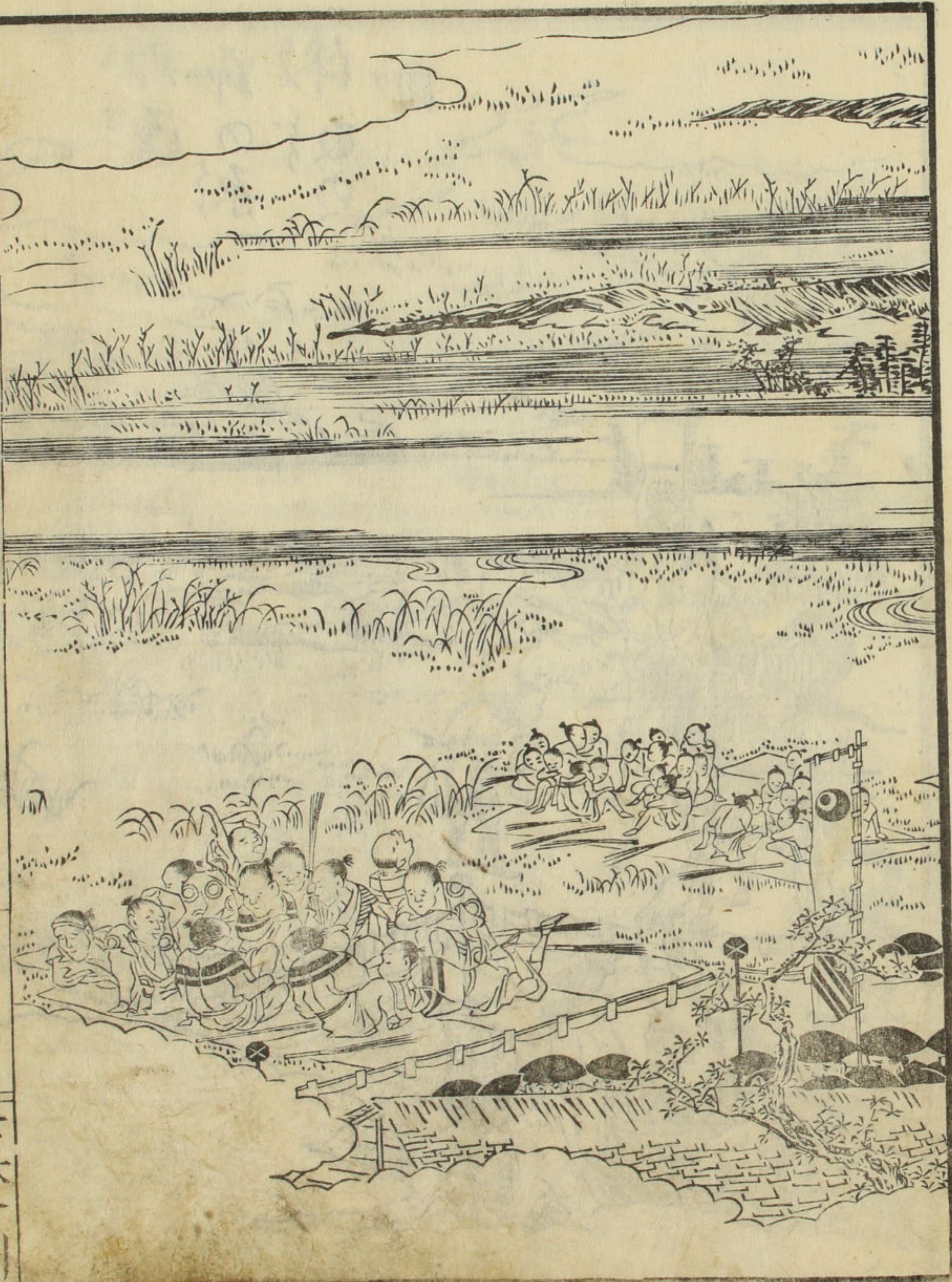
三本上夏

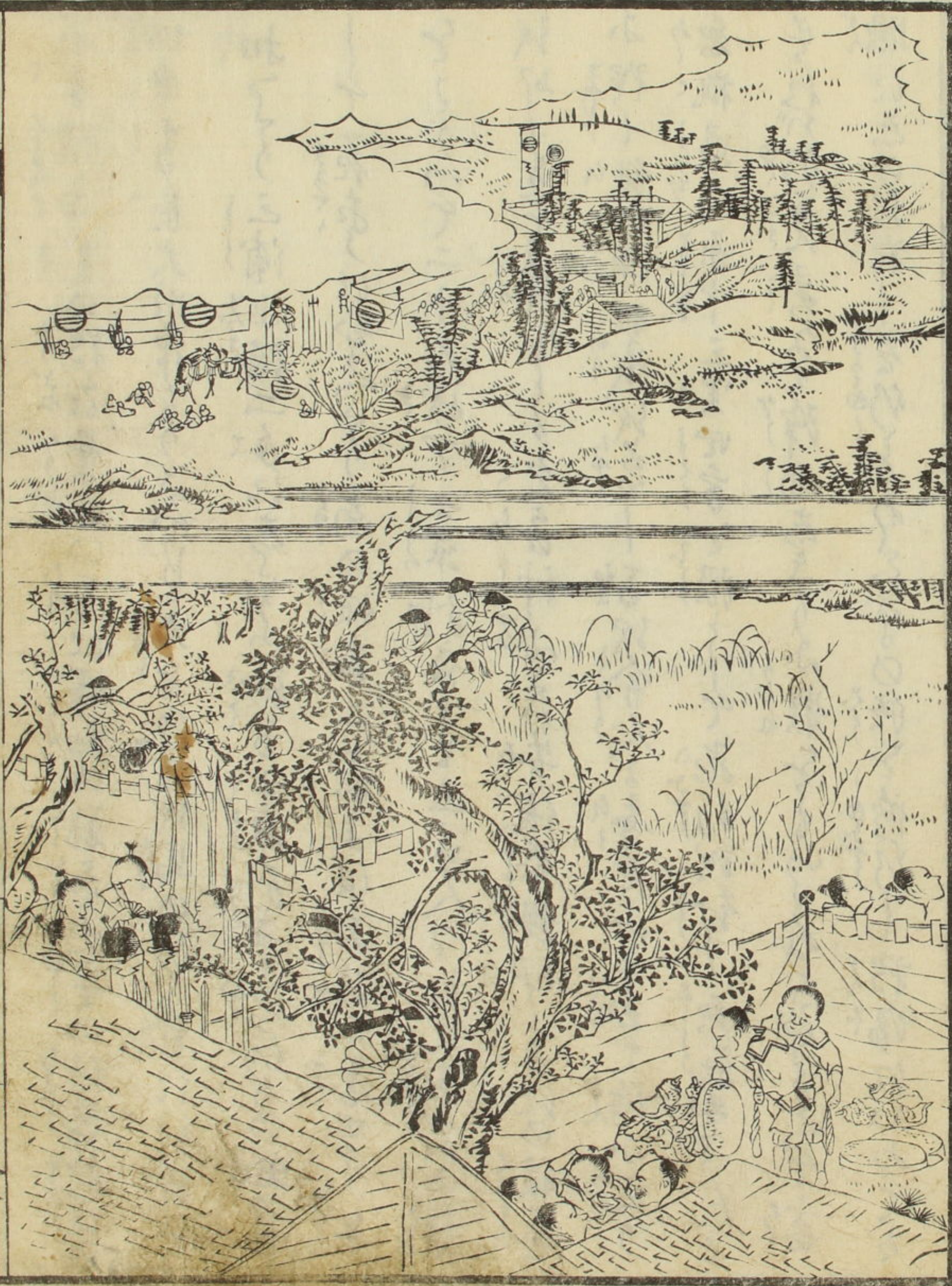
こころち大集集て振持の調練成なりけるが其日の誓古おんく
 三浦女買受をふり弓矢成候りし一ひとふたりりねを
 上総女も着に神物あつて陰成候けあひと候り金神徳
 のしらほは三浦成候一奇異の思ひ候あふける既又誓古の
 目もあてうけ引候りる魚一も首上達一見分ををいを費
 の形意成なりぬ大逆の射術是成槍擧て二物乃式
 定まり西留流瀆馬益掛大逆物後世の今に行りて成候て
 振持の調練熟なるもふも延引とてあはれ悪候退治
 進發の目限も定まらば八郎宗重方も其旨達をて播磨

守恭親の三百人を候一日之ちあまらるる翌日三浦女義純上総
 女廣常誘馬又十騎の士卒列率七ふみ百人於合をり又千
 余人を引具一發無翻翻と風よひりりり力陰燐耀と日に群
 隊但整くとわたり候とて武威を示し下野の由はあすむ
 るとさる處まにこそえにける洛中洛外に及ば道筋の貴
 族群集して感せぬとのちあうりりり於國八別は宣下あひく
 数方の列率成出さるり候ふ
 兩女那須野の原振將英恭親降雨の法を以て
 時二保延三丁巳年九月播磨吉安倍恭親下野國那須の心と劍
 着し候り那須八郎宗重小島西一葉内を乞て修法の場を



三浦上總
那須野
進發
の
園





那須の陣
取の図



小舟勝苗英の村を粟毛のるに螺鈿の飾を大星の乃勝能皮の
 切身も良大四神よりさぶり大身の陰謀馬のひく前に引付け
 扱より三浦上総二島にまがふ跡言士率別率四島の物具
 して花衣にむくより南の飯家ニケホはあおま屋せ一兵
 をころめて二十又跡言士率別率も三人ついであ家の旗
 旗印もそと陣をころ久良神山の安信恭親ひくさ記の後巻
 小舟跡言の陣羽織旗印も一兵舎人ふ率せ山よりむく櫓小より
 悪瓶退治系中三里四方を隈もて花衣旗印も悪瓶をくんと
 それが跡言先号の降雨志より小體をもつてあくぼくもて富
 眼に志の記をくそりくわらぶるの法を修り一持場におめてる

三浦女と總分東西よりるるに系配ららり二十又跡言先り
 をるへ系中におくそせむむ山よりハ島宗重も勢をまがぶが
 来り雨よりハ又十跡言六千人の勢あておすむ敷多の別率
 もも証をあり右敵をうち割沖をたささて西へ弓矢強隊
 得るものくを携つ螺貝を吹紙お圖々同喜にさし揚る実の
 考敷多の鳴もの一時はかうて矢小初言山登り船一大地を
 さけ金桶奈落も崩れくう甲おびしあんをさるる事あり
 新日入生六十里屋小波りちく横つるゆる舟おれ先を天を
 こがしてふれがく白昼にむくく二日二夜透るもいり村多れ
 とも令免九尾白面の悪瓶もさるるさるりけりふそ三浦上総の



三浦上総
 両介
 九尾の狐を
 退治の
 場

三國女女傳下編卷之四

十四

書林舎川



三國女女傳下編卷之四

十五

書林舎川

あふ魚板を打てり大將の位を奪うてくわくくわくひりく
於て並ぶやいふ隠きのがうも影をさすや並ぶさうと想を
てり一松明おびるや一打をせよかかこに扱て出た射うれ系
張るや一煖拂てくけく射まきば久ら神山よ大恭親丹誠を
こし祈りやぐに三日の木の束の刻るくそらつくより其形小半の
いく令毛九尾白面の大瓶九牙の丈七三三余尾願うけて一丈又百
わんとう下が影を出あ射あねく花也成三浦分上總分魔成
おろり八節もとも下に知してうの敷よ八同あうけそ悪板を取
巻る一徳石成方切まこう成遠まこくわわがに瓶いへい
返せよん身成のがれんむらぶ列幸三三人をけとじくけ出

と一室をくんとすりあは恭親が修る降雨の法をどて三里以限り
出るとわささび取てと一人馬成さういらく花を花神へ又を
つと射一遊執一これがあふ害せうそものいんとを敷をあうび
三浦分は時と板防の法神よりさうあ多い一うふ多成あうび
多智に神力権護はれまると唱さううら引くをどてあまは
あたまさひ悪板の服さうまう一甲り甲りてを射あさる
これあまのりまび射あめがけてさういうらんとせ一知二のまて
首飾成射あさうりけ時大音あけ安房國の住人三浦分平
義純不測の悪板を射あさうらと唱りけるなまさうこの悪板
を射あねく花うら成と縁あさるの心射よりさうらも大身



代ゆらうまをすれを代くいつて下りたらし帝ある子柄なり

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

繪本三國妖婦傳下編卷之四終

